



外山 正利 議員

8人が登壇

■高齢者も安心して生活できる町づくり

介護保険制度改革に伴う当町の取組は

■観光振興で交流人口の拡大は

プレイDCの取組と終了後観光振興にどう繋げるのか

町長

□現行サービスを下回ることをないよう最大限支援できるよう努力する

□観光誘客などの支援を得て、中・長期な視点で取り組む

議員 介護保険制度改革に伴い当町の取組は。

町長 予防給付（訪問介護・通所介護）を地域支援事業（自治体）を来年度に移行する。現時点で把握できる範囲で、町の考え方を示していく。

議員 要支援一・二の方に提供している現行サービス・現行回数を維持できるか。また、実施主体は現行と同じか3点について問う。

町長 今後は29年度末

ば、まだその段階には至っていない。人材の養成に努めながら進めていく。

議員 町の山形DC受け入れ体制は。

町長 期間中日帰りツアー3回計画している町の魅力を余す事無く体験していただく。

議員 DC終了後観光振興にどう繋げていくのか。

町長 継続的な事業展開を図らなければならぬと考えている。梅里苑や農家民宿3

軒・学習センター「まざれや」など活動拠点として、巨木ツアーや・農林業体験、スポーツ合宿など、当町らしい体験・滞在型の商品開発をする事が重要である。

町長 26年度は10月25

は開催期間2日にしてはどうか。日・26日の2日間において開催する計画である。

議員 ボランティアによる美化運動の推進、特に梅公園に芝桜の植栽してはどうか。

町長 花木植栽を実施するさい町民の協力をお願いする。梅公園の芝桜は検討する。

議員 収穫祭・逸品展



交流人口の拡大に梅まつりのにぎわいを

文化の匂いのする行政運営は

町長

□町民の立場に立って「協働の町づくり」を一層推進



佐藤 勝徳 議員

議員 行政は常に、住民が郷土を誇りとし、住み続けたいと思うように、個性のあふれるまちづくり、心豊かな人づくりを推進しなければならぬ。地方の時代にふさわしい独自性、特異性を発揮し、総合的な文化の匂いのする行政運営、すなわち行政の文化化を図る必要性がある。新しい時代に即応した「文化行政の推進」と云ったように、行政の分野で「文化」と言う言葉を多く聞くようになったが「行政の文化化」について町長はどのように認識されているか問う。

町長 私が一貫して推進してきた「協働のまちづくり」、「住民目線、住民の立場に立った行政サービス」を行うこと、これを行える行政職員、行政組織となる

こと、そして町民との対話、交流、意見交換をもとに町民の目線で町民ニーズやその行政課題、政策課題をしっかり把握し、これを町民の立場に立って解決策を導き出し、実行し、それを町民と共に検証・評価し、さらに進化させていくことこそ「協働のまちづくり」であり「行政の文化化」であるうと認識している。

町長 議会における指摘事項や検討事項の内容、課題は、その対応案を担当課が取りまとめ、議会後の政策調整会議で、協議検討し、喫緊の実施が必要なものは私の判断で、次期議会での予算等の議決を踏まえて実施している。また、中・長期課題で

あれば、住民ニーズの度合いや施策・事業化の可能性と効果など多面的な検討を行い、事業化に向けた計画の設定や改正、国県の承認・許可、議会における議決等を踏まえて事業実施をしているので、これまで通り、議会における一般質問、議案審議、委員会審議等での議論で良いと認識している。

議員 議会答弁の中で、しばしば「検討してみた」「考慮する」あるいは「努力したい」と結んで終わることが少なくない、しかし、その後はなんの報告もない。その後どのように対応して検討したのか、その経過を次回の定例会の町長の行政



町民のために忙しく働く職員

他の質問

●新教育長の所信は

いづがききたい

一般質問